



Technical Note 04-42

URL に 4DACTION を使用しない方法

By David Adams

Technical Note 04-42

(原題: 4th Dimension 2004 Allows New Freedoms in Form URLs)

概要

4D 2004 では、フォームリクエストの処理に画期的な変更が加えられました。HTTP POST メソッドで 4D に送信される URL は、事実上、デベロッパが自由に決められるようになったのです。これまで 4D の Web サーバに POST メソッドでフォームを送信する場合は URL に 4DACTION、4DCGI、4DMETHOD タグを使用していました。

http://www.example.com/4DACTION/Web_HandleSearch/

<http://www.example.com/4DCGI/ProcessApplication/>

4D 2004 では、有効な URL であればどのようなものでもリクエストを送信することができるようになりました。これはセキュリティ、美観、利便性、商業面などの点でたいへん優れているといえるでしょう。

http://www.example.com/cgi-bin/process_form.php

<http://www.example.com/forms/search/>

<http://www.example.com/MyStore/WebObjects/MyStore.woa>

<http://www.example.com/forms/search.aspx>

GET WEB FORM VARIABLES コマンドの拡張

アップグレードマニュアルには、このコマンドの改良点が次のように紹介されています。

4th Dimension 2004 では、このコマンドの処理機能が拡張されています。Web サーバへ送信される URL のタイプとは関係なく、このコマンドを利用できるようになりました。具体的に言うと、すべての URL へ POST データを送信する HTML フォームで動作できるようになります。

以前のバージョンの 4th Dimension では、“/4DACTION”、“/4DMETHOD”、“/4DCGI”で開始するリクエスト、またはリクエスト文字列を含むリクエストだけがこのコマンドで解析されていました。

変更点を明確にするために以前の動作を思い起こしてみましょう。POST メソッドで送信されたフォームデータを受け取ることのできる場所は3つありました。

On Web Authentication の\$2
On Web Connection (あれば) の\$2
GET WEB FORM VARIABLES

以前の 4D Web Server では、いずれの場合も 4D のキーワードで始まらない URL の POST データはすべて無視されてしまい、これを回避する手だてはありませんでした。

4D カスタム URL の動作

カスタム URL による 4D の動作は、使用されたキーワードによって以下のように異なります。

キーワード	動作
4DACTION	Compiler_Web メソッドがあれば実行 On Web Authentication を実行 4DACTION で指定されたメソッドを実行
4DCGI	Compiler_Web メソッドがあれば実行 On Web Authentication を実行 On Web Connection を実行
4DMETHOD	On Web Authentication を実行 On Web Connection を実行 4DMETHOD で指定されたメソッドをコンテキストモードで実行

上記のキーワードが含まれない場合、URL がドキュメントのパスであれば、該当ドキュメントが 4D の Web サーバより配信されます。そうでなければ、リクエストは未知の URL とみなされ、4DCGI と同様に扱われます。

この動作はバージョン 2003/2004 と共通ですが、バージョン 2004 では POST データを GET WEB FORM VARIABLES で取得できるようになった点が異なります。GET WEB FORM VARIABLES は Web プロセスの任意の箇所からコールすることができますが、On Web Authentication であらかじめプロセス配列に値を代入するのが便利です。